

# 図画工作科において 表したいことを主体的に追求する児童の育成

## —「かんじる・ためす・つくりだす」の活動を 繰り返し取り入れた絵の指導の工夫—

富岡市立高瀬小学校 菅原 千夏

### 《 研究の概要 》

本研究は、小学校第2学年の児童を対象に、図画工作科の絵に表す活動において、表したいことを主体的に追求する児童の育成を目指したものである。題材の各過程において、「かんじる・ためす・つくりだす」活動を繰り返し取り入れて、絵の指導を行った。その結果、児童が感性や想像力を働かせて思考・判断する中で、よりよいものをつくりだそうとする姿が生まれ、主体的に追求しながら絵に表すことができるようになった。

【キーワード：図画工作 主体的 絵の指導】

#### I 主題設定の理由

現代は、人工知能（AI）やロボティクス等の先端技術が高度化し、より快適に活力に満ちた生活を送ることができる一方で、社会の在り方そのものが非連続と言えるほど劇的に変わる状況が生じている。中央教育審議会答申では、一人一人が「自分のよさや可能性を認識」し、「あらゆる他者を価値のある存在として尊重」することで、人々と協働しながら社会的変化を乗り越えることが必要であるとしている。図画工作科において、表現の方法は自由であり、答えは一つではない。だからこそ、活動や作品を通して他者と関わりながら、自他の違いやよさを感じたり、自分自身の感じ方や考えを確かめ合ったりすることができる。このように、自己と向き合い、新しい自分を追求する図画工作科は、大きな社会的変化を乗り越えるのと同時に楽しく豊かな生活を創造し、豊かな情操を培うことができる教科である。

従来の図画工作科でも主体的な活動を重視してきたが、今回の改訂では、何を学び、さらにもどのように学ぶかが今まで以上に重要になっていると考える。そのため、本研究では、製作における児童の学びの姿勢に着目した。はばたく群馬の指導プランⅡ(令和元年)には、主体的・対話的で深い学びの授業改善の実現に向けたポイントに、児童が「試行錯誤しながらよりよい表し方を見付けられる」ための手立てが挙げられている。したがって、結果としての作品だけでなく、めあてに向かって、試行錯誤しながらよりよい表し方を見付ける姿勢が大切となりその過程に意味や価値が生まれてくると考える。

本学級では、造形活動において意欲的に楽しんで取り組む児童が多い。しかし、上手く仕上げられるのか不安に感じていたり、失敗を恐れたりして、つくりはじめることができない児童の姿も見られる。また、表したいことを絵に表す題材では、思いや表したいものがあったとしても、それをどう表したらよいのか迷っている児童はとて多い。

そのため、教師が児童の造形的な資質・能力を育成するための学びを、繰り返し意図的に取り入れて指導を行うことが大切と考えた。そこで本研究では、図画工作科の授業において「かんじる・ためす・つくりだす」活動を繰り返し取り入れた絵の指導を行うことで、表したいことを主体的に追求する児童を育成できると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

図画工作科の授業において「かんじる・ためす・つくりだす」活動を繰り返し取り入れた絵の指導を行うことで、表したいことを主体的に追求する児童を育成できることを、実践を通して明らかにする。

## III 研究の手立て

手立て「かんじる・ためす・つくりだす」活動を繰り返し取り入れた絵の指導

「かんじる・ためす・つくりだす」とは、児童の造形的な資質・能力を育成するための学びの活動を端的に表したものである（図1）。これら三つの活動は、「①感じたものを②試して③つくりだす」という順序性をもつものではなく、各過程に繰り返し取り入れるものである。

各過程における三つの活動を繰り返し取り入れるための手立てについては、以下の通りである（図2）。

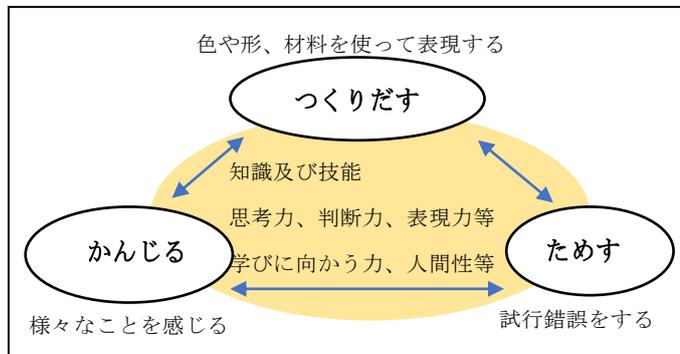


図1 「かんじる・ためす・つくりだす」の相関図

| 過程  | 基本的な活動                   | 「かんじる・ためす・つくりだす」活動のための手立て  |
|-----|--------------------------|--|
| 出会う | 表現の見通しをもつ。               | <p>① 自分の思いがもてるように、感じたことなどを試しに表す活動時間を設定する。</p> <p>② 思いが広がるように、感じたことや試して表したものを見合う場を設定する。</p>   |
| 試す  | 表したいことや主題を発想・構想して、思いをもつ。 | <p>① 思いに合った表し方を見つけられるように、材料や用具を体験し、様々な表現方法を試す場を設定する。</p> <p>② 様々な表現方法を知り、発想を広げることができるように、友達作品を見合う場を設定する。</p>   |
| 表す  | 構想を基に製作する。               | <p>① 視野を広げたり考えを深めたりできるように、表現活動を互いに見合う場を設定する。</p> <p>② 思いに応じて材料や用具を選んだり組み合わせたりできるように、見本の提示や、様々な材料や用具を用意する。</p> <p>③ どの材料や用具を使えばよいのか迷っている児童には、児童の思いを聞きながら二つ程度の選択肢に絞り、その中から児童に選ばせるといった、児童の思いが実現できるような支援を行う。</p> |

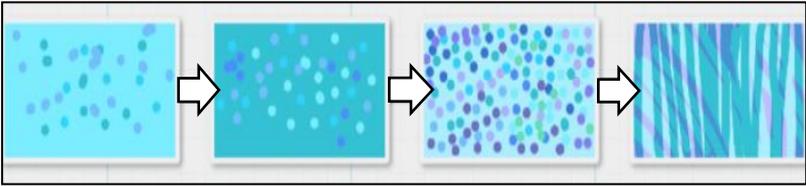
|      |                  |  |
|------|------------------|--|
| 振り返る | 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。 | <p>① 自他の作品のよさや思いに気付くことができるように、表し方の工夫を交流の視点として挙げることで、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。</p> <p>② 児童が、作品のどの部分に面白さや表し方の工夫を感じたのかを伝えやすいように、絵の写真等に直接コメントを書き込んで鑑賞できるようにする。</p> |
|------|------------------|--|

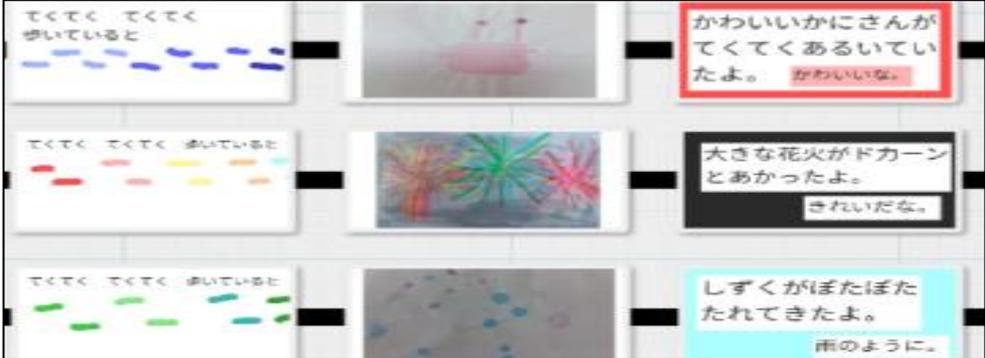
図2 「かんじる・ためす・つくりだす」活動のための手立て

#### IV 実践の様子

- 1 対象 高瀬小学校第2学年3組 29名
- 2 期間 令和3年10月～11月
- 3 教科等 図画工作科
- 4 単元名 ことばのかたち
- 5 実践の様子

##### (1) 指導の計画

| 時 | 過程  | 学習活動   | 指導方針  |
|---|-----|--|---|
|   |     |  | <p>「かんじる・ためす・つくりだす」活動のための手立て</p>  |
| 1 | 出会う | <p>・学習の見通しをもつ。</p> <p>題材のめあて</p> <p>言葉の様子を絵に表すためには、線の形や色をどのように工夫したらよいだろうか。</p> | <p>・身近な自然にある雨をテーマにして、雨の音や様子を絵に表すことで、題材への関心を高める。</p> <p>① 何度も試しながら言葉を形や色で表せるように、タブレットを活用する(図3)。</p>  <p>② タブレット画面で、友達の提出した作品を見て、同じ言葉でも様々な表し方があることに気づき、自分の見方や表し方の発想を広げられるようにする。</p> |
| 2 | 試す  | <p>・クレヨンやパス、絵の具を試しながら、用具の扱いに慣れる。</p>   | <p>① 思いに合った形や色の表し方を見付けられるように、クレヨンやパス、絵の具で様々な表現方法を試せる場を設定する。</p> <p>② 様々な表現方法を知り、発想を広げることができるように、友達の作品や表現を見せ合う場を設定する。</p>  |
| 3 | 表す  | <p>・言葉に合う形や色を、クレヨンやパス、絵の具を使って工夫して表す。</p>                                       | <p>① 視野を広げたり思いを深めたりできるように、互いの作品を見合う場を設定する。</p> <p>② 言葉に合わせて、何度も試して表せるように、材料や用具を用意する。</p> <p>③ どの塗り方で表せばよいか迷っている児童には、児童</p>  |

|                                  |      |  |  |
|----------------------------------|------|--|--|
|                                  |      |  | <p>の思いを聞きながら二つ程度の選択肢に絞り、その中から児童に選ばせるといった、児童の思いが実現できるような支援行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の様子が伝わってくるかを感じ取りながら鑑賞できるように、めあてに対する交流の視点を掲示する。</li> </ul>  |
| 4                                |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>表した形や色から想像を広げ、絵と文をつなぎ合わせて、絵本をつくる。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>④ 児童が試しながら仕上げられるように、作品の仕上がり例をいくつか提示する。</li> <li>言葉の様子を意識して作品製作できるように、タブレットを活用して自他の作品から絵を選んでつなぎ合わせ、絵本に仕上げる活動を設定する（図4）。</li> </ul>  |
| 5                                |      |             |  |
| <p>図4 自分と友達の絵をつなげて作った児童の絵本作品</p> |      |  |  |
| 6                                | 振り返る | <ul style="list-style-type: none"> <li>自他の作品を見合い、面白さや表し方の工夫を感じ取り、気付いたことや思ったことを発表する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>④ 自他の作品のよさや思いに気付くことができるように、形や色の表し方の工夫を交流の視点として挙げることで、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。</li> <li>④ 児童が、作品のどの部分に面白さや表し方の工夫を感じたのかを伝えやすいように、タブレットの写真画像にコメントを書き込んで鑑賞できるようにする。</li> </ul> |

(2) 本時の実践

①ねらい 言葉に合う線の形や色を絵に表すことを通して、塗り方を工夫することができる。

②準備 教師：塗り方の参考作品、画用紙と試し用の薄い画用紙、共用の絵の具、ぼかし用ペーパー、タブレット

児童：クレヨン、パス、絵の具、探検ボードバック、タブレット、塗り方作品集（試し塗りした作品のヒントカード）

③展開

| 学習活動  | 指導上の留意点   |
|---|---|
| <p>1 前時までを振り返り、本時のめあてをつかむ。(10分)</p> <p>T：「ことばのかたち」では、これまでにタブレットを使って表しました。その後は何をしましたか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の例を一つ取り挙げて、言葉に合った様々な塗り方を考えることを捉え、めあてへの方向付けができるようにする。</li> <li>④ 導入で前時までの学習が想起できるように、タブレットで表した作品や様々な塗り</li> </ul> |

S：クレヨンやパス、絵の具で色々な塗り方を試した。

T：今日は、言葉に合う形や色をクレヨンやパス、絵の具を使って絵に表していきますが、言葉に合う形や色とは、どのように表したらよいですか。

S：ザーザー雨なら、2～3本塗りで、ポツポツ雨なら点々塗りで、合う塗り方を考える。

T：では、今日は、何に気を付けて絵に表したらよいですか。

〈めあて〉ことばのようすを絵にあらわすには、どんなぬり方をしたらよいのだろう。

T：窓の外は、雨があがって山から雲が湧き出ていますね。どんな様子ですか。

S：雲がふわふわ、もくもく出てきている。

S：ふと塗りやぼかし塗りできそうだ。

S：空は絵の具ではじかせ塗りが合いそうだ。

## 2 本時の流れを把握し、選んだ言葉に合う塗り方を考え、表現活動に取り組む。(25分)

私の言葉カードは、「にじいろの花火が空にヒュルルードッカーン、とあがった」。

空を黒くして、花火の色を虹色で表したいから、厚い画用紙にはじかせ塗り



図6 言葉カードを見て、塗り方を考える



図7 材料や表し方の試しの場

方の作品を掲示する(図5)。



図5 様々な塗り方の提示

① 前時で試した様々な塗り方を想起できるように、窓の外の様子を言葉で表現させてどんな塗り方が合うのか問いかけ、その塗り方を教師が実演して描く。

・ 活動の流れを把握できるように、材料や用具、作品置き場を確認し、手順を掲示する。

・ 本時では、絵に表す活動の時間を十分確保したり、塗り方をじっくり考えたりできるようにするために、言葉選びを事前に行いタブレットに保存しておく(図6)。

② 絵の具の水の量や混色の調節にとらわれず、表すことに集中できるように、共用の絵の具を用意する。共用の絵の具は、水で溶いた絵の具を12色用意し、注ぎやすいキャップをつけたペットボトルに入れて教室中央に設置する(図7)。

私は、空に雲と虹が気持ちよさそうに浮かんでいる様子を表現したいから、試し紙にクレヨンの赤と橙と黄色の3本塗りてぼかしてみようかな。



図8 言葉の様子に合う塗り方を試す

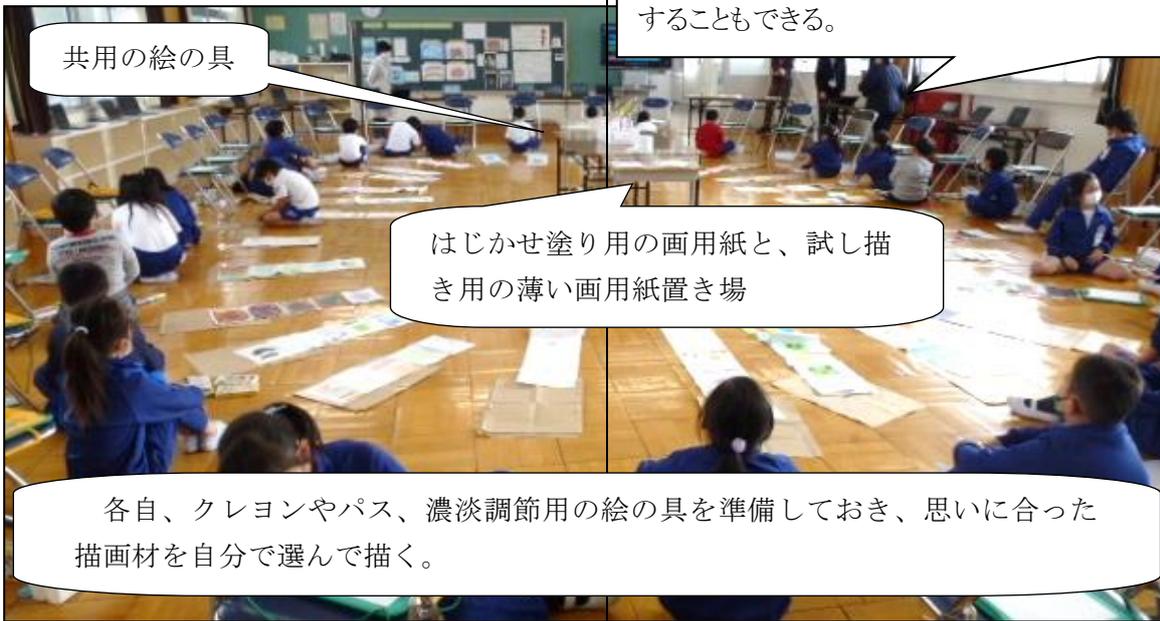
⑧ 言葉に合わせて、何度も試して表せるように、クレヨンやパス、濃淡調節用の絵の具を用意する(図8)。

⑨ 視野を広げたり思いを深めたりできるように、作品を見合う場を設定する(図9)。

材料や用具、表現方法を試すコーナーを中央に設置する。児童は円形に座り、できた作品を中心に向かって放射状に置いていく。

児童は、作品を置いたり中央のコーナーに移動したりする中で、友達の作品や表現を鑑賞することができる。また、鑑賞する中で交流することもできる。

共用の絵の具



はじかせ塗り用の画用紙と、試し描き用の薄い画用紙置き場

各自、クレヨンやパス、濃淡調節用の絵の具を準備しておき、思いにあった描画材を自分で選んで描く。

図9 友達の作品を鑑賞し、交流できる場の設定

S: クレヨンやパス、どっちを使って塗ったらいいのかな。

T: どんな様子を表現したいですか。

S: モグラが土を掘っているところ。

T: 掘った土は、固いですか、それともふかふかですか。

S: ふかふか。

T: じゃあ何塗りがいいですか。

S: パスでふと塗りして、ぼかし塗りかな。試しにやってみよう。

⑩ どの塗り方で表せばよいのか迷っている児童には、児童の思いを聞きながら二つ程度の選択肢に絞り、その中から児童に選ばせるといった、児童の思いが実現できるような支援を行う。

(ア)【評価項目】(見取りの方法)

・言葉の意味を考えて、描画材の塗り方を工夫し、言葉の様子を絵に表している。(観察、作品、振り返りカード)

3 本時の振り返りをする。(10分)

T: 言葉の様子を表すために、どんな塗り方をしたか感想を發表しましょう。

・言葉の様子が伝わってくるかを感じ取りながら鑑賞できるように、めあてに対する交流の視点を掲示する。

<振り返り>

・夜空にぴかぴかと光り輝いている花火の様子を表したくて、クレヨンと絵の具を使って、2～3本塗りとはじかせ塗りで描いた（図10）。

・いつも行く大好きな公園にある木を表したくて、絵の具で薄く塗り重ねて描いた。好きな公園の木が思うように描けて嬉しい（図11）。

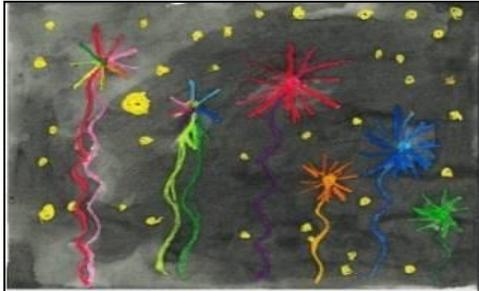


図10 作品

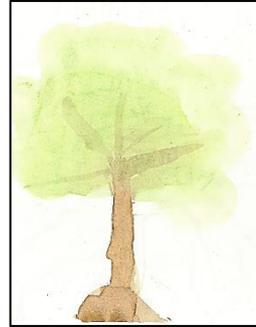


図11 作品

V 研究のまとめと今後の課題

1 まとめ

◎ 「かんじる・ためす・つくりだす活動を繰り返し取り入れた絵の指導の工夫」について

図画工作科の授業において、感じたものを、試して、つくりだすという順序性をもつ指導ではなく、題材の各過程において、かんじる・ためす・つくりだす活動を繰り返し取り入れた絵の指導を行ったところ、児童の発言や姿に以下の変化が見られた（図12）。

| 4月の児童の発言や姿  | 実践後の発言や姿   |
|---|--|
| ○ちゃんの絵を真似しよう。   | ⇒○ちゃん見て。○ちゃんと同じようにこの色とこの色を混ぜたらきれいな色ができたよ。（かんじる）                                      |
| 先生、何を描けばいいですか？  | ⇒…虹が出た時の空が描きたいな。（先生の例を見て）  |
|   | 青空に浮かぶ虹と雲をクレヨンで描いて、その後、空色の絵の具ではじかせ塗りで試しに塗ってみようかな。（ためす）                               |
| 土を描くから、クレヨンの茶色でぬればいかな。  | ⇒モグラが顔を出した土を描くなら何塗りがいいかな。（教師助言「それは、どんな土ですか」）   |
|   | ふかふかな土だから、パスで太塗りして、ぼかし塗りをやってみよう。（つくりだす）  |
| 表したいことを表現することが苦手で、言葉で説明した児童（図13）。   | ⇒塗り方をたくさん試し、空に浮かぶ雲や光を形と色で絵に表せるようになった児童（図14）。   |
|  |  |
| <p>図13 児童の4月の作品</p>   | <p>図14 左の児童の本題材の試し作品</p>   |

人前での表現が苦手な、周りに人がいると、絵に表すことができなかつた児童（図15）。

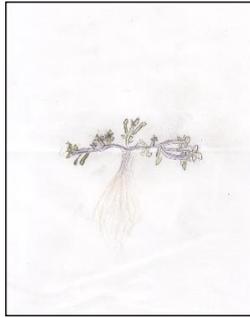


図15 別室で一人になり描いていた児童の草のスケッチ画

⇒周りに友達がいる中でも、次々に自分の思いを絵に表せるようになった児童の姿（図16、17）。



図16 友達と塗り方を交流する児童



図17 図16の児童の作品

図12 実践前後の児童の姿や発言とつぶやきの変化

このように、本実践を通して、上記の姿と発言の他、「次の図工はいつですか。早く描きたいな」や「次は何を描こうかな、わくわくするな」といった学習を楽しみにしている姿が見られた。さらに、絵に表すことに苦手意識をもっていた児童も含めて、ほぼ全員が続きをもっと描きたいと発言した。絵に表すことを楽しむとともに、見たり感じたりする力、次にどのような形や色にするかを考える力、それを実現するために用具や表し方を工夫する力、一度つくったものを改めて見て、新たなものをつくりだそうとする力が働き、児童の造形的な資質・能力が自然に発揮されている姿が見られた。4月の頃は、上手く仕上げられるのか不安に感じていたり、失敗を恐れたりして、つくりはじめることができない児童、さらに思いや表したいものがあったとしても、それをどう表したらよいか迷っている児童がとても多かった実態を考えると、この姿は、児童が表したいことを主体的に追求する姿になったと言える。これは教師が、題材の各過程において、かんじる・ためす・つくりだす活動を繰り返し取り入れた絵の指導を工夫したことにより、児童が感性や想像力を働かせて思考・判断する中で、よりよいものをつくりだそうと、主体的に追求しながら絵に表す力が身に付いたためであると考えられる。さらに、この姿は、本単元の目標が達成された姿でもある。

このことから、かんじる・ためす・つくりだす活動を繰り返し取り入れた絵の指導は、表したいことを主体的に追求する児童を育成するための手立てとして有効である。

## 2 課題

本題材「ことばのかたち」では、言葉の様子や気持ちをどのように表すのかを考えるため、タブレットで画像を検索し、絵に表したいものの参考画像（写真）を見ながら描けるように事前準備をした。言葉の様子を意識して絵に表す児童は多くいたが、様子を表すための塗り方を工夫することよりも写真を再現することに集中してしまう様子も見られた。今後は、自分の思いをつきつめる時間をしっかり確保することで、児童が表したい思いを基に表したいことを追求できるようにしていくことが必要である。

<参考文献>・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作科編』（2017）

・群馬県教育委員会義務教育課『はばたく群馬の指導プランⅡ』（2019）

・日本文教出版株式会社「図画工作教師用指導書 指導解説編1・2下」（2020）